

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 1 日作成)

委員会名	都市景観小委員会	主 査 名：西村 幸夫
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鳴海 邦碩
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	都市景観に関わる議論を多様なアプローチから喚起し、もって良好な都市景観の実現をめざす。	
委員構成 (委員名(所属))	西村幸夫(東京大学)、和田幸信(足利工業大学)、浅野聡(三重大学)、鷗心治(山口大学)、浦口醇二(かいアソシエイツ)、奥俊信(北海道大学)、熊野稔(徳山工業高等専門学校)、倉田直道(工学院大学)、後藤春彦(早稲田大学)、小林敬一(東北芸術工科大学)、中林浩(平安女学院大学)、野中勝利(筑波大学)、宮脇勝(千葉大学)、山中知彦(都市建築研究所)、宇於崎勝也(日本大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	研究協議会資料編集作業部会 研究協議会の資料編集およびそれをもとにした商業出版に向けての作業	
2004 年度予算	220,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	6月25日(10名)2004年度研究協議会の検討、2004年景観ルックイン企画 8月28日(15名)2004年景観ルックイン報告、2005年度景観ルックイン企画 2月3日(7名)2004年度大会行事反省、2004年度研究協議会の検討、 次年度小委員会の設置及び構成
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>前年度最終小委員会(2004年3月8日)の議論を経て、年度内の活動方針について議論し、大会期間中に「研究協議会『景観』の制度化と都市計画-美しい都市づくりを目指して-」を開催した。また、例年どおり「都市景観ルックイン」を帯広市で開催した。第2回小委員会は景観ルックイン開催時に現地で行った。なお、研究協議会資料集は400ページにも及ぶ大著となり、400部を作成し、年度内に完売している。</p> <p>本年度の研究協議会における議論は、2000年度研究協議会「まちづくりのシナリオ・メイキング-「生活景」からの地域環境づくり」から続く一連の景観の議論の総括となるもので、景観法制定も追い風となり「景観」に関する議論を大いに尽くしたものであり、適切なパネリストの選択と、その発言から目的はほぼ達成された。</p> <p>研究協議会資料集については学術的価値、有用性も高く商業出版として広く社会に公表する準備を進めている。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>「生活景」や身近な景観に焦点をあてて議論を深めてきた。景観法の制定を受けて実際により良い景観づくりの具体的作業が発生してくると思われるが、その助走として景観のよさを再認識する機会を得られたものと考え。そのため、活動計画はほぼ満足する成果によって終えたと判断される。</p> <p>なお、「景観法」の成立を受けて都市景観を取り巻く環境が大きく転換し、ここに時機を得て研究協議会を主催することで、日本建築学会の景観に対する姿勢を示すことができた。</p>
その他評価すべき事項	第14回「景観ルックイン」は大会会場から至近の景観のフィールドを実際訪ね、ミニシンポジウムを開催するなど地元の人々、学生を巻き込んで具体の景観の中でその向上策を探る試みと位置づけている。地元の啓発。学生の意識向上にも寄与しており評価できると考える。